

頑張る

農業法人

野菜苗「淀苗」産地として知られる久御山町藤和田地区の農業法人「株式会社ナカニシフラワー」は、年間200万鉢もの大量の花苗を生産する。大手ホームセンターを中心に販売、市場出荷やネット通販まで手掛ける。高い品質が好評で、需要は安定している。

同町の藤和田と北川瀬両地区は、宇治川と木津川に挟まれた良質の砂地で、水はけの良い土壌を生かして、室町時代から「淀苗」の生産が行われている。現在も15戸の農家をつくる「北藤育苗組合」が多品目の野菜苗をJAを通じて京阪神に出荷する。

同法人代表取締役の中西義晴さん(57)は、農業専門学校卒業後、20歳で就農。両親と野菜苗を中心に花苗を栽培していたが、25年前に父親が亡くなった後は、年間雇用をしやすい花苗作りに一本化した。

商品化は難しかったが、改良を重ね3年目で成功。ハウス栽培で品目を増やし市場出荷していたが、知人の紹介で大手ホームセンターとの取引を開始した。

高い品質が好評となり、生産量の確保のために雇用が必要となった。法人化で信用力を高めようと、1995年5月に家族3人で同社を設立。従業員、パートタイマーを雇用し、徐々に生産規模を増やし、ピーク時には年間300万鉢を生産するまでになった。法人は、中西さんと妻の多恵子さん(53)、次男が取締役を務め、従業員4人、パートタイマー11人で経営する。現在1・6畝にガラス温室やアクリル温室、ビ

(株)ナカニシフラワー 久御山町



大規模なハウスで花苗を育てる中西さん

花苗専門で規模拡大

土づくりにこだわり質向上

ニールハウスの計25棟を用意し、ペチュニア、ベゴニア、パンジー、ビオラなど年間約110品種の花苗200万鉢を生産する。

土づくりにこだわり、技術向上で発色鮮やか、形状も良好など高品質の生産を実現し、各種品評会で知事賞など多数入賞している。

また、インターネットの利用で通販量も増加。全国各地の小・中学校や企業などから注文が殺到する時期もあるという。

中西さんは、「近年は花の需要が低迷し、業界全体が厳しい経営環境にあるが、買ってくれた人が喜んでくれる苗作りをモットーに、定植後にきちんと生育する苗作りに努めている。さらなる経営の安定化を目指したい」と話す。

▽法人の所在地〓久世郡久御山町藤和田藤ノ東18。電話〓075(632)1988。